

平成 28 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会 議事録

場所：YIC 公務員専門学校 2 階応接室

日時：平成 28 年 7 月 12 日 14：00～15：00

出席者：学校関係者評価委員

澤村 有利生 様：社会福祉法人 山口県社会福祉協議会 事務局長

阿部 誉久 様：山口商工会議所 小郡南部地域振興課長

徳永 博久 様：山口県桜が丘高等学校 教諭

本校教職員

山根 多野眞路：校 長

岡村 尚之：副校長（司会・書記）

田中 秀樹：教務課長

飯田 直樹：事務長

一、委員紹介、資料確認

二、学校関係者評価委員会規程について

（岡村副校長より）

1 学校関係者評価委員会規程についての説明

三、平成 27 年度 自己点検・評価の実施結果、改善内容および課題

1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

(1) 学校行事等で学生・保護者に対しての理念確認について

（岡村副校長より）

保護者へは、入学式後の保護者オリエンテーションで説明。学生に対しては、入学後の新入生オリエンテーションで説明している。

2 教育の内容

(1) 授業改善への取組みについて

（岡村副校長より）

各教員に年度当初に「職務目標・能力自己申告表」を提出してもらう。その中において、授業改善への取組みに関する職務目標を各自設定し、年度末に副校長による面談・評価を実施することになっている。

(2) 教職員の研修について

（岡村副校長より）

現在 YIC グループ本部の総合支援部が主体となって内部研修を実施。平成 27 年度はコミュニケーション、キャリアサポーター養成講座等に関する研修を実施し、全教職員が受講。

3 教育の実施体制

(1) 学生が利用できる参考図書・関連図書について

(岡村副校長より)

参考図書・関連図書は備えられているが、関連図書も少ないため、蔵書数も少ない。自習室としての利用率の方が高い。

4 教育目標の達成度と教育効果

(1) 学生の就職結果に関する検証・報告について

(岡村副校長より)

教員とキャリアサポート室職員がメンバーとなって就職委員会を実施し、公務員試験の合格状況を報告し、情報共有を図っている。

公務員試験に不合格となり、民間就職へ進路変更した学生については、キャリアサポート室職員が就職支援を行い、対象学生の大半が在学中の採用内定を達成している。

(2) 卒業生の1年後の就業状況の把握について

(岡村副校長より)

卒業生を対象とした就業状況調査は実施していないが、来校した卒業生等から卒業生の現状を聞き、大半についての状況は把握している。

5 学生支援

(1) 奨学金制度等の経済的支援について

(岡村副校長より)

本校では日本学生支援機構の利用率が高く、学校独自の奨学金制度もある。

(2) 学校情報の保護者への提供（HP・学校便り等）について

(岡村副校長より)

当校では毎月1回の学校便りを保護者に郵送している。その際、学生の出席状況のほか、公務員模擬試験の成績表を同封し、学生の学習状況を保護者と共有できるように努めている。

6 社会的活動

(1) 社会的活動（ボランティア等）の実施について

(田中課長より)

今年度より、レノファの試合が開催される際のボランティアに全員が参加し、単位認定している。

7 管理運営

(1) SD（スタッフディベロップメント）に関する計画・実施について

(飯田事務長より)

年末に実施するグループ内の教職員研修があるが、さらなる取組みの強化が今後の課題である。

8 改革・改善

(1)自己点検・評価の組織について

(岡村副校長より)

昨年度より自己点検評価委員会を発足させ、教職員の意見を反映させた形で 27 年度報告書を作成している。

四、自己点検・評価報告に対する質疑応答

1 自己点検の項目の設定について

(澤村様より)

自己点検項目はどのようにして設定・作成したのか。

(岡村副校長より)

当校は「全国専門学校経営研究会」が作成した様式を使用しており、学校独自で点検項目を設定したものではない。今後は、YIC 独自のものに点検項目も変えていきたいと考えている。

2 学生が利用できる参考図書・関連図書について

(澤村様より)

近隣の図書館等と連携して学生が活用しやすい環境を整えては。

(阿部様より)

図書を電子化し、ネット上で閲覧できる環境にすれば、学生も利用しやすいのでは。

3 奨学金制度等の経済的支援について

(阿部様より)

在校生はどれくらい奨学金を利用しているのか。

(飯田事務長より)

日本学生支援機構の奨学金については、学生全体の約 3 割ぐらい。

(阿部様より)

学校独自の奨学金制度はないのか。

(岡村副校長より)

昨年度より県の補助を受けた形での、学校独自の奨学金制度を設けた。

五、各学科の教育内容について

1 公務員総合学科（2年課程）と公務員学科（1年課程）

(徳永様より)

公務員合格を目指すのが最終目標であるから、基本は1年課程を進めている。むしろ「公務員を目指すのに2年も費やして何をやってたの？」と問いたくなる。

高校の立場では、高校3年で現役合格できなければ、YIC に行って1年で合格するように頑張れと促している。

また家庭の経済格差も広がっており、公務員受験に2年分の学費を負担するのは経済的にも厳しいと思う。

(岡村副校長より)

近年は、2年課程入学も増えている。ただし山口県内ではまだ予備校のように取られている保護者が多く、当校においても2年課程より1年課程への入学者が圧倒的に多いのが現状である。

2年課程を選択する場合は、保護者が強く希望するケースが多い。大学進学か2年課程で検討したのち、「進学」先として公務員総合学科に入学してくる。

2 公務員総合学科 (2年課程)

(澤村様より)

事務職であれば、山口県社協においても公務員の仕事とあまり変わらないと思う。現在は大卒で社会福祉職のみの正職員採用になっているが、今後は専門学校を卒業した事務職の採用も考えている。

(岡村副校長より)

公共団体において事務職採用を積極的に行っていただけると、就職先としてありがたい。

学生は「公的な分野で働きたい」という意識が強いので、団体職員については積極的に受験と思う。実際、JAや商工会を受験し就職する学生も複数いる。

六、次回委員会開催について

次回会議は平成29年4月以降に開催予定とする。

以上